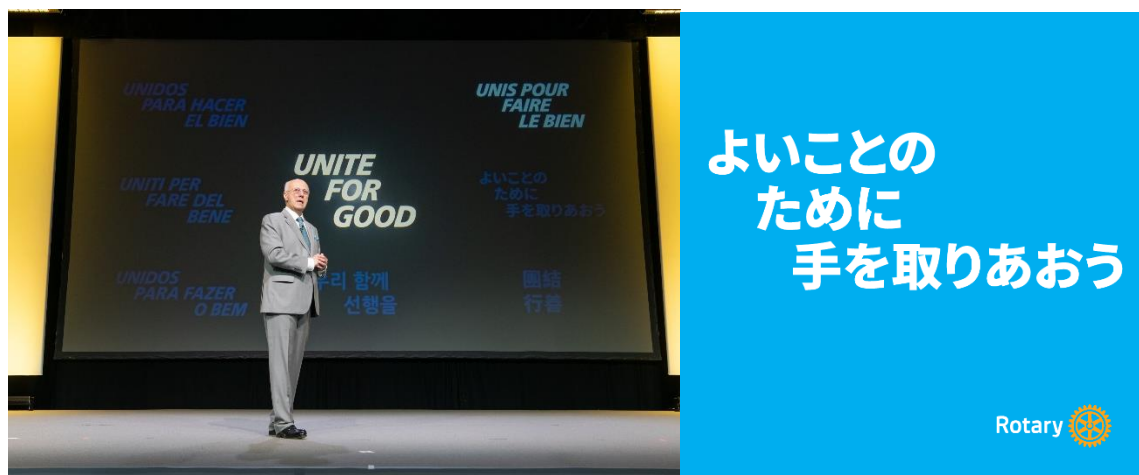


2025-26 年度 国際ロータリー会長メッセージ

「よいことのために手を取りあおう」

(英語: UNITE FOR GOOD)

サンパウロ（ブラジル）のサントアンドレ・ロータリークラブに所属するマリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ国際ロータリー会長エレクトは、2月10日、米国フロリダ州オーランドで開かれたロータリー国際協議会で、「地球上で最も有能なボランティアのチーム」を拡大する計画の概要を示し、成長、奉仕、つながりを大切に「よいことのために手を取りあおう」と、会員に呼びかけた。



ロータリーの最大の財産は、その歴史でも、プロジェクトでも、比類のない世界的広がりでもない。それは会員です。ロータリーのパートナー団体がロータリー会員の「並外れた献身」を称賛したことに触れ、外部団体からそう認められたことで、ロータリーが世界に与えることのできる最大の贈り物は、その会員であるという私の理解が深まった。

世界の地域社会でのロータリーの奉仕を強化することの重要性を強調し、その上で、成長のための「不可欠な3つの柱」として、革新、継続性、パートナーシップを挙げた。

革新しながらも一貫した伝統を築く

テクノロジー、社会の期待、経済状況は常に変化しており、ロータリーもそれに合わせて進化しなければなりません。……革新こそが、変化するこの世界に私たちが適応する手段。

リーダーシップの継続性の重要性

継続性とは、画一性ではなく、連携です。地区リーダー同士の連携し、自分の”ガバナ一年度”を越えてロータリーを思い描けば、長期的な成功の土台が築かれる。

パートナーシップの力

ロータリー会員は単独でも大きな成果をあげられるが、仲間と協力すれば世界を変えることさえ可能である。ポリオ根絶に向けたロータリーの歴史的な取り組みは、ゲイツ財団、世界保健機関、UNICEF（国連児童基金）などのパートナーと連携して行われてきた。これらのパートナー団体がなかったら、ロータリーが同様のインパクトをもたらすことはできなかつたろう。さらに、入会への関心を高め、クラブを活性化させるために、さまざまな形でのパートナーシップを模索するよう提案した。

事業者団体、専門職団体、学術機関などと協力することで、ロータリーは職業や考え方の多様性を取り入れながら新会員を増やすことができる。奉仕と参画というロータリーの価値観を共有する職業人に働きかけることで、世界でよいことをするロータリーの力を拡大できる。

デ・カマルゴ氏は「ロータリーのすべての功績と成長は、究極的に会員にかかっている。会員の入会促進と維持に力を入れることで、今後も長年にわたって地域社会に変化を生み出すロータリーの強さと力が高まる」と語った。